

(株)スターランド
「スーパースター」導入店レポート



HARE-TABI SAUNA & INN YOKOHAMA [横浜市中区]

オープン2年後にPOSを含むシステム刷新
売上増、業務効率化、戦略的施策が可能に



店長 橋口佳貴氏

中華街に活気を取り戻すため
人気の高いサウナ事業に参入

国内外から多くの観光客が訪れる横浜・中華街。その一角にある「HARE-TABI SAUNA & INN YOKOHAMA」は、2階に全30室のカプセルホテル、3階に本格的なサウナ店舗を構える複合施設だ。運営する(株)アミナコレクションは雑貨、カフェ、アパレル、宿泊施設などを全国で展開。同施設に関しては、2018年10月に2階のカプセルホテルがオープンし、コロナ禍を挟んだ2023年4月に3階のサウナ店舗を新設してグランドオープンとなった。なお同社にとってはサウナ事業への初参入となる。

「コロナ禍の影響で客足が減った横浜・中華街に活気を取り戻すため、地元企業として何か貢献できないかと考え、当時ブームとなっていたサウナの開設に至りました」と、店長の橋口佳貴氏。著名な温浴コンサルタントを招いて店舗開発を行ない、ドイツ製の水車式サウナストープや中国茶のセルフフロウリュなど、質とコンセプトにこだわった。ドリンクメニューも充実しており、サウナ前に飲んで発汗を促すスターターショット、サウナ中のサプライドリンク、サウナ後のフィニッシュドリンクはそれぞれ数種類を用意。フードメニューは取り扱っていないが近隣の飲食店と提携し、同店舗のレシートを持参すれば“サ飯”を提供してもらえるなど地域との連携にも注力している。

利用プランに関しては、サウナのみ、宿泊のみのほか、サウナと宿泊がセットにしたプランも用意。場所柄、外国人の利用も多いという。

オーダー端末導入で売上げ増加
出入金ミス削減しスタッフ負担軽減

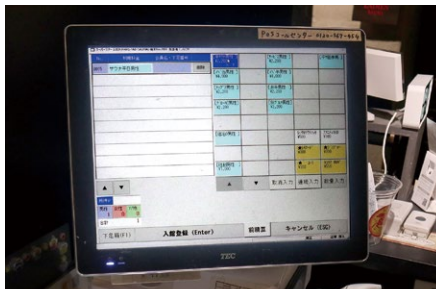
同施設では、オープンから2年が経過した2025年4月にスターランドのPOSシ



“近代産業発祥の地”である横浜をイメージしたインダストリアルな意匠に、赤レンガを取り入れた空間演出が印象的なサウナルーム



男女それぞれのロッカールームに設置されたドリンクオーダー端末。タッチパネルの右上にICリストバンドをかざすことでオーダーが可能となる



入店受付時のPOS画面。受付スタッフが利用プランを選択し、ICリストバンドに登録して利用客に手渡す



退店時の料金精算は、受付スタッフがICリストバンドをセンサーにかざして、ドリンクを含めた精算金額を提示。利用客から料金を受け取ったスタッフが自動釣り銭機の手操作も行なう

ステムと自動釣り銭機、タッチパネル式のドリンクオーダー端末を導入した。

「それ以前は手入力によるレジシステムだったので、出入金のミスなどが発生していました。ドリンクオーダーは店内に設置されたインターホンから受け付け、スタッフはそれを手書きでメモするなど作業が煩雑で、改善の余地が大きいありました」と橋口店長は当時を振り返る。

新しいシステムでは、ロッカーキーを兼ねたリストバンドのICチップに、POSレジを介して利用プランを登録し、受付時に利用客に手渡す。別料金のドリンクオーダーは、店内2か所に設置されたオーダー端末にICチップを読み込ませて、タッチパネルを使って行なう。

「お客さまにとっても、インターホンからタッチパネルに移行したことでオーダーしやすくなったのか、ドリンクの売上げが明らかに伸びています」と橋口店長。

退店時には、受付スタッフが利用客から受け取ったICリストバンドをPOS

レジのセンサーにかざして、ドリンクを含めた精算金額を提示し、料金を受け取ったスタッフが自動釣り銭機を操作する。出入金のミスが削減され、業務の効率化によってスタッフの負担も軽減、新人スタッフの教育もしやすくなったという。

また売上げの詳細なデータが見える化されたことで、効率的なスタッフ配置とオペレーション、サービスなどにおける戦略的な施策が可能となった。

これらの導入メリットを受け、同社では2025年8月に千葉県富津市にオープンしたサウナとグランピングの複合施設「SATOYAMA TERRACE」にもスターランドのPOSシステムを導入しており、大きな効果をあげている。

「スーパースター」シリーズとは

POSシステム「スーパースター」シリーズは、(株)スターランドが企画・開発・販売。カラオケボックスのほか、複合カフェ、温浴施設、宿泊施設など各業界向けバージョンがラインナップされ、その導入施設から高い評価を受けている。